

新春特別企画 2023 名張市長の夢

名張市のリーダーはどんな夢を描き、
どんな未来をつくろうとしているのか？



周りの幸せは、自分の幸せ

父の姿

親父は戦艦大和の乗組員。九死に一生を得る壮絶な体験をした人が身近にいたものですから、「いつ、どこで何が起きてもおかしくない」との気持ちはずっとどこかにある。だからこそ、一度きりの人生で、やりたいことは諦めず、とことんやっておきたい。そんな思いが自分の生き様になっているのかもしれない。普段はおとなしい人間なんですけどね。

私が政治の世界に足を踏み入れようとした時、両親はすごく心配しました。親類で政治家は一人もいませんでしたから。「そんな私でも、政治家を志せることを実証したい」という気持ちもありました。何より、北川正恭元三重県知事が「おまかせ民主主義」として示した「批判ばかりしていても社会は変わらない」という考え方に対して、「社会をよくするために、自分は何をしてきたのか」と、なにか恥ずかしい思いに駆られたのです。一念発起して、県議会議員に。現在は市長職を任せていただいています。もちろん、自分の力だけでなく、多くの人に支えられて事を成し遂げていけるということは、いつも忘れずにいたいと思っています。

印象深い「広報」の仕事

大学生のころは時事問題研究会に所属。新聞を持ち寄って、「この社会問題はどうすれば解決するか」と議論しました。卒業後は、行政を勉強しようという思いもあったので、名張市役所へ。特に広報

の仕事は印象深かった。地域の取材をしたり、市民参加の広報紙づくりを進めたり、お風呂でひたすら見出しを考えたり。地域の課題に目を向けながら、さまざまなことを知ること、そして、伝えることに魅了されていきました。その後、ケーブルテレビ局に転職し、番組制作や営業の仕事を経験することになります。

幸せの定義

幼い頃、大人が子どもに自分のケーキを分けてくれることが不思議でした。こんなにおいしいのって。大人からすると、子どもの笑顔を見ることに幸せを感じるんですね。自分だけの幸せは長続きしないもの。周りの人を一人でも幸せにできたならば、自分もすごく幸せになれるのだと思います。

それに、私にとって名張は、身近な人の笑顔や語らいがあり、自分が幸せを感じられる場所。そんな名張も人口減少が進んでいます。若者をはじめ、いろんな人に名張と関わり続けてもらうことが大切。そのためにも、名張への愛着を育み、活躍いただける場をつくっていきます。

市長になって、「名張にはこんなにもすごい人がいたんだ」と、うれしい発見がたくさんあります。社会を動かしてするのは「人」。思う存分、力を発揮いただける環境をつくっていききたいですね。私も「チーム名張」の一員として、皆さんと一緒に、このまちを舞台に自分の生き様をぶつけていきたいですね。



名張市長 北川 裕之

Profile

昭和34年生まれ。64歳。昭和56年に同志社大学を卒業。同年4月から名張市職員、平成4年からケーブルテレビ会社勤務。平成15年に三重県議会議員に初当選し、5期にわたり県政に携わる。そして、昨年4月、第5代名張市長に就任。なばり新時代に向けての舵を取り始めた。



インタビューは動画でも配信

市長のよこがお 1 数年前に謡曲を始めました



親父が謡曲仕舞をしていた影響で、数年前に謡曲を始めました。独特の世界観に触れることができてもおもしろいのですが、その良さがなかなか知られていない。例えば、歴史ドラマで信長が「人間50年〜」って舞うシーンを思い出して。かっこいいでしょ。若い人もぜひ興味をもって！

ハードロックにハマりました 市長のよこがお 2

高校生のころは長髪だったんです。ハードロックにハマりましてね。その後、労働者や若者の声を代弁していたブルース・スプリングスティーンが大好きに。決してあきらめないその生き様に魅了されました。今も、友人たちとバンドを組んで、年に1回ほど人前で歌っています。



市長にあれこれ聞いてみた！



自転車でもちおこしをしていきましょう！

澤幸男さん

いいですね！一緒に走りましょう！



小さい頃の夢は？

伊藤千江子さん

近鉄特急の運転手！ビスタカーに憧れてました



どうやって苦手なものを克服しますか？

中田尚希さん

好きな音楽を聴いて元気をもらいます！



子どもは好きですか？

石川加奈さん
侑誠くん

大好きです！みじけない笑顔に未来を感じます

市長からヒトコト